

インフォームド・コンセントの手続等の簡略化等に伴う研究内容のお知らせについて

（「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」第8の1に基づく広報）

○「[研究課題名：慢性期水俣病患者の嚥下障害の評価および複合低周波治療器（ニューロトリート）や末梢神経磁気刺激装置を用いたリハビリテーションの効果検証](#)」（2024年1月29日承認）

研究課題名：

慢性期水俣病患者の嚥下障害の評価および複合低周波治療器（ニューロトリート）や末梢神経磁気刺激装置を用いたリハビリテーションの効果検証

研究の目的と方法：

高齢になるにつれて、食べ物を飲み込む力が徐々に弱くなります。食べ物を飲み込む力が弱くなることで、飲み込んだ食べ物等が食道ではなく肺に入ってしまう、誤嚥性肺炎という肺炎を引き起こす可能性が高くなります。この誤嚥性肺炎を予防するためには、飲み込み力を維持する又は高める必要があります。

飲み込む力を高める方法として、低周波治療器や末梢神経磁気刺激による治療の効果が明らかになっています。低周波は痛みや不快を感じるがありますが、低周波のように痛みや不快を感じずに筋肉に刺激を与えることができる複合低周波治療器があります。これは医療機器として認証されており、すでに病院やクリニックでも使用されています。また、末梢神経磁気刺激は、肌の弱い方や髭のある方でも利用することができ、治療時間も2分間で短い時間で実施できます。しかし、水俣病患者さんで使用したという報告はありませんので、今回皆様に複合低周波治療器や末梢神経磁気刺激装置を試していただき、この機器の効果について検証したいと考えています。皆様にご協力いただくことで、飲み込む力が弱くなった水俣病患者さんの支援につなげていきたいと考えています。また、食べる機能を維持することで日常生活における楽しみの機会を維持できるよう支援していきたいと考えています。

研究の対象者及び対象期間：

- ・対象者：高齢期（60歳以上）の水俣病患者
- ・研究機関：2021年7月21日～2027年3月31日

研究に利用する試料・情報：

基本的な情報についてお話を伺います。その後、水俣市立総合医療センターで、以下に書いてある嚥下機能の検査を受けていただきます。

- ① 反復唾液嚥下テスト（RSST：repetitive saliva swallowing test）

- ② 改定水飲みテスト（MWST：modified water swallowing test）
- ③ 食物テスト（FT：food test）
- ④ ディサースリア検査（AMSD）：構音障害の検査
- ⑤ MASA 日本語版シート：嚥下障害の重症度や誤嚥リスクのスクリーニング
- ⑥ 嚥下造影検査（VF：swallowing videofluorography）
- ⑦ 嚥下内視鏡検査（VE：videoendoscopic evaluation of swallowing）

※ただし、ここに記載している検査のうち、必要なものだけ実施します。

※過去半年以内に、他機関において当該研究の目的以外で上記の評価を実施している場合、その情報を利用させていただく場合があります。

共同研究機関および共同研究者：

- ・ 国立水俣病総合研究センター（責任者：中村 篤）
- ・ 国保水俣市立総合医療センター（責任者：馬場敦子）

研究全体の管理責任者：

国立水俣病総合研究センター 中村篤

お問い合わせ先：

〒867-0008 熊本県水俣市浜 4058-18

国立水俣病総合研究センター 中村篤

TEL 0966-63-3111 FAX 0966-61-1145